

尾瀬

2022. 4. 20

この前、以前から気にはなっていないながらも、なかなか行く機会がなかったお店に行ってみた。昔から地元根ざしたお店である。コロナになってからは、このように地元密着型の過ごし方が多い。時間はお昼である。家人と店に入った後に、3組ほど立て続けに入ってきた。お近所さんだろうか。昔から通っているのであろう。年配の方が多い。

注文を終え、店内を見渡していると、飾ってある絵に目がとまった。家人も同じ絵を見ていた。すぐにどなたの絵なのかわかった。サインを確認し、間違いないという確信を得た。描かれている風景がどこなのかもすぐにわかった。

それは尾瀬だった。描いたのは、我々の仲人さんである。今は、結婚する際に仲人さんなど頼まないのかもしれない。私たちの頃は、まだまだ仲人さんがいるのが当たり前だった。我々の仲人さんは、当時、小学校の校長先生だった。専門は美術、図画工作である。現役の頃から絵は描いていたが、ご退職後、本格的に制作活動が始まった。

すると、尾瀬の絵をよく描くようになった。ライフワークとなっていたのかもしれない。いつだったかは、仲人さんの尾瀬の絵が切手になったことがあった。私たちの結婚のお祝いにいただいたのも尾瀬の絵だった。私の実家にも何点か尾瀬の絵がある。

この店にあったのも尾瀬の絵である。店内をよく見ると、他にもあった。どれも小さな絵である。尾瀬のかわいらしい風景がよく似合うサイズである。同じ尾瀬でも、我が家や実家にあるものとは少し雰囲気が違うと感じた。描かれた時期によるのだろう。

このお店は、以前はお寿司屋さんだったのか、お寿司と他のメニューとがある。もう昔のことだが、仲人さんのお宅に伺ったときに、お寿司をご馳走になったことがあった。あのお寿司は、この店から出前されたものだろうという結論に至った。このお店と仲人さんのお宅は同じエリアにある。それで、お店には仲人さんの尾瀬の絵が飾られているのだろうと納得した。

このお店の建物は古いが、よく手入れが行き届いており、清潔感がある。旅館でも同じような建物を見ることがある。そこで働く人の心持ちの問題であろう。きれいな店内に、目立たず、されどまるで尾瀬の花々のように確かな存在感を示す絵である。このお店だからこそ、よく似合う。

仲人さんは、数年前にこの世を去った。だが、その思いが込められた作品は、様々な所で輝きを放っている。仲人さんが何度も通った尾瀬の美しさが、その絵を見る人に何かを語りかける。尾瀬のかわいらしい絵には仲人さんの人柄や、長年にわたり子どもの教育に携わってきた優しさが溢れている。もう一度、このお店に来たときには、仲人さんの話題をしてみようと思う。